

●兵庫県南あわじ市立松帆小学校

『防災マニュアル』から教材プリントまで 「教えやすく、伝えやすくなった」と実感。

阪神淡路大震災を経験し、防災意識の高い淡路島の南あわじ市立松帆小学校。
2007年夏に2色デジタル印刷機を導入後、初めて制作したのは『防災マニュアル』
でした。以来、「伝えやすい」配色の研究を深め、現在では通信類や算数、
国語などの教材プリントまで、印刷物の種類も多岐に渡っています。



宮崎祐三校長

防災に関心の高い地で 『防災マニュアル』を2色印刷

南あわじ市は淡路島の最南端に位置しており、松帆小学校（宮崎祐三校長）は有名な景勝地である慶野松原、五色浜に近い、のどかな田園地帯にあります。児童数は265名。

2色デジタル印刷機の研究助成校として同機を導入したのは、2007年夏。立石佳史先生が研究主任となり、ただちに取り組んだのが『防災マニュアル』の2色印刷です。

「そもそも2色デジタル印刷機の助成申請の目的が、だれにもひと目でわかる『防災マニュアル』を作ることでした。この冊子は毎年、全保護者に配布しているものです」（立石先生）

1995年には阪神淡路大震災で大きな被害が出、現在も南海地震への危機感があります。海拔の低い平野部では、津波の危険と背中合わせの生活。4年前の台風による豪雨では、大きなため池が決壊しました（ちなみに兵庫県内に

は全国最多のため池がありますが、その半数超の約2万2千が淡路に集中）。

「ところがこれまで、防災訓練で子どもたちを保護者が迎えに来る際、いくらコースをマニュアルに書いても、誘導どおりに来ても、一度に200台

前後の車が集まるので、そのつど、混乱が起きていました。理由は単純で、1色

印刷では、ひと目でコースが理解されないことでした」（立石先生）

どの部分に色を使うか、ほかの先生とも研究し合い、「絶対に伝えたい内容を赤色で表現」し、現在の2色の『防災マニュアル』が完成。保護者からのアンケートでも、「これならよく分かる」と好評を得ています。

よりよい色づかいを 先生方でディスカッション

『防災マニュアル』の制作を通じて、先生方が2色印刷の楽しさを実感すると同時に配色について

の研究も深まりました。パソコン上でイメージした色づかいが、実際に刷られてみると違って、どうすればいいか考えるといった試行錯誤を繰り返したといいます。

現在では、『学校だより』をはじめ『学級通信』『食育だより』『図書だより』など、多くの媒体に2色印刷は広がっています。

「それぞれの媒体ごとに、どこに何色を使えばよいか、さまざまな議論を重ねました。例えば『食育だより』では青色を使うと、食べ物が見えやすくなるという意見が出ましたし、『図書だより』で



立石佳史先生

